

1. 幼稚園の目標	2. 本年度の重点目標
カトリックの愛と祈りの精神に基づき 神様を愛し人を愛することができる 子どもに育てる	・心を育てる ・心育による情操教育 ・縦割り保育 ・小学校連携の充実のカリキュラム ・挨拶・礼儀・よい生活習慣の形成 ・挨拶・礼儀・よい生活習慣の形成 ・モンテッソーリ教育 ・地域との交流

3. 目標・評価					外部関係者から
①こころを育てる					意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	
教育活動	生きる力の育ち	自分で考えて判断できているか	正しい目標を定めそれに向かって努力する心の強さを担う	3.7	
	思いやりの心の育ち	相互のつながりをふやす	縦割り保育で家庭的な雰囲気をつくる	4.2	
個人差がある中、個人に応じた目標を持って寄り添っていった。子ども主体でできる経験の中でチャレンジさせ、達成感を得られるような関わりを持つようにしたが、集団の中での育ち(自由と規律)を導びいていく中で難しさも感じた。					縦割り教室の中で異年齢の関わりを持ち、年長者としての自覚をもっていくことは素晴らしい事だと思う。一方で「生きる力の育ち」と言う点では今の自分より少し上の目標への挑戦という場面で少ないように感じる。横割りの中で、同じ年齢の子と意見を出し合い協力して遊ぶ機会がもっと増えるとうい。
異年齢で関わる中で優しさや思いやりの姿が自然に見られ、子どもたちの純粋な心にも癒されながら学ぶこともある。保育者自身も友だち同士での関わりを大切にすることも意識しながら保育に携わっている。					

②宗教による情操教育					意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	
教育活動	神様に愛されていることを知る	すべてのものに感謝する心を学ぶ	自己肯定感と善悪の判断をつけ正しいことを実行できる良心を形成する	3.9	
日々の祈りの中で神様に愛され見守られていることを伝えてきた。その中で宗教教育の日もあり感謝する気持ちを子ども達に伝えながら自分たちも意識し保育者が手本となり、子ども達に示していけるよう今後も努力していきたい。静かに手を合わせ祈る事で穏やかな気持ちになり相手の気持ちに気づいていけるような思いやりの心を育てよう願いながら保育する。					生活の中で神様に祈る習慣が身に付き、良い情操教育ができています。家庭でも連携できるような、保護者にも祈り方や子どもへの接し方を指導してほしい。宗教の時間以外にも宗教に関する絵本等を読み聞かせするのもよい。職員が1日1回教会を訪問し、神様を感じることで、大きな力となり、子どもたちの最大の環境となると思う。

③地域との交流					意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	
教育活動	地域とのつながりを深める	自分の笑顔が他の人に役にたつことの喜びを体験する	・地域の園外清掃 ・老人ホーム慰問 ・虹の松原清掃	3.1	
年長児は行事の中でも地域交流の場が多くあり、地域の方々と交流をした。一方年長以外のクラスでは地域との関わりが少なかったと感じられる。その中でも避難訓練の経路などを散歩する中よく挨拶をする声が聞かれる事はよかった。近所の方にも保育者から積極的に挨拶をするようにし保育者の姿から成長するに連れ学び、自然な挨拶ができるようにしていきたい。					地域との交流はできているが、年長児のみに偏っている印象を受ける。縦割りクラスでの交流ができるとより良くなると思われる。教会は開かれた教会となるための努力をしたい。

④小学校連携					意見や提言など
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	
教育活動	小学校に興味をもち親しみをもち	遊びの体験を学びの自立へ持っていけるよう促す	生活習慣の徹底、精神的自立、ができるよう一人一人にあわせた記録をとり指導する	3.6	
生活習慣の乱れが0歳児から見られ食事と睡眠がいかに密着したものか実感。就学に向けて基本的な生活習慣が身についているか家庭と連携して見直しが必要なご家庭には声を掛ける。成長段階に応じてその子のペースに関わり、保護者の就学に向けて不安を少しでも解決できるよう努めた。又、必要以上に支援してしまう事もあったため日々の振り返りを大切にして子どもの育ちを今後も支えていきたい。					小学校生活にスムーズに入れるように、年長児は横割り時間を増やし、ひらがな時計の読みを一定レベルに到達できるよう指導すると保護者も安心できると思う。卒園を迎える子ども達の姿から小学校への夢と期待が膨らんでいるように思われ、成長を感じた。

4 本年度のまとめ
各自職員が個々に目標を立て、ひとりひとりの育ちを捉えて、子ども達に接していると思うが、職員も経験年数が異なるため子どもへの見方に相違を感じる時は職員で話し合いを行い共通理解をして、ひとりひとりにあった援助や保育を行う。また、自分たちが子どもの手本となるべき先生になるために、立ち振る舞いや声の大きさ、言葉遣いや整理整頓をきちんとするよう皆で研修を重ねていく。年間を通した縦割り保育の中で子どもたち同士の思いやりや協調性が多いに育まれ子どもたちの成長を感じる。これからも子どもをよく観察して今、子ども達に必要な援助は何なのか考え子ども達への見通しを立てて保育をするよう心掛けていきたい。

達成度
5 ほぼできた
4 概ねできた
3 少しできた
2 不十分だった

外部関係者より総評
職員・子ども・保護者が共に育ち合う園であって欲しいと思う故に、若い職員が退職したことは寂しい。個々の項目で提言が多くなったが、子ども達へ思い、保護者への気配り等感謝している。幼稚園から認定こども園への移行に伴う変容も落ち着いてきたころと思われるので、これまで育んできた「カトリックらしさ」を残しつつ、新たなカトリック幼稚園らしさの気づき上げに自信をもって取り組んでほしい。